

お答えします！

市民が気になる 新病院へのギモン💡

Part1

今月と来月は、市民の皆さまから寄せられた新病院への質問（一部抜粋）に
お答えします。今回は主に病室の計画や医師の確保などについてです。



Q1 先月号で公開された平面計画では、病床数が当初の170床から164床となっていました。その経緯と根拠について、説明してほしい。

A 病床数については、基本計画段階で算定した170床をもとに、各室の構成も含め、基本設計で精査することとしていました。基本設計作業の中で改めて個室ニーズや感染対策、患者さんの見守り動線などを検証した結果、病棟の形状がまとまり、個室数を増加させることとなり、あわせて整備規模も考慮した結果、164床が妥当と判断しました。6床減少となりますが、病床運用を工夫すれば、開院時に医療が必要な市民への対応について、支障が生じることがなく、運用できる範囲内での差と捉えています。また、この病床数の変更については、県とも事前協議を行っており、地域医療構想が

定める播磨姫路圏域内での病床機能別病床数の方向性との整合性の観点からも、特段の問題は生じておりません。

Q2 病室について、基本設計中間報告では、4床室と個室の計画がありましたが、個室をもっと増やす方がいいのでは？

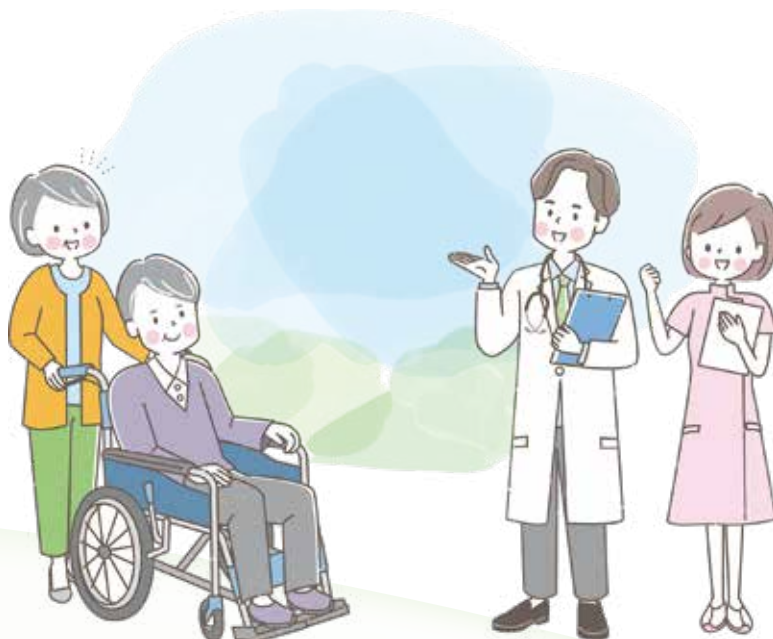
A 現在の病床構成は、開院時に医療が必要な市民への対応に支障が生じないよう、個室ニーズや感染対策、患者さんの見守り動線などを検証した結果です。そのため、床面積を増やさずに個室だけを増やすと、病床数が少なくなり、医療が必要な市民への対応に支障が生じると考えています。また、病床数を確保しつつ個室を増やすことは、床面積が増えるだけでなく、整備事業費の増加にもつながるため、難しいと考えています。

Q3 豪華な病院を計画していませんか？

A 病院建築については、基本的に病院の機能性に重点を置いたコンパクトな建築とすることとしています。そのため、豪華な仕様は一切考えておらず、できる限り、規格品を採用したり、他病院の建築事例を踏まえた設備関係(熱源設備など)の整備水準を考慮したりするなど、コストを抑えた簡素な病院を計画しています。

Q4 高齢者などの利用者について、通院手段はどう考えていますか？

A 通院手段は、自家用車および公共交通機関などの利用を想定しています。公共交通機関については、路線バス運行事業者と路線の見直しや院内への乗り入れなどの協議を進めています。



Q5 水害対策などについては、どのように考えていますか？

A 洪水などによる浸水の高さおよび浸水エリアについては、兵庫県の高さハザードマップを参考に、病院棟を現状の地盤高から3メートルかさ上げする計画としています。また、発電設備などについては、2階以上への設置を計画するとともに、1階では止水板などを活用した浸水対策を検討しています。

Q6 人口は減少する一方なのに、新病院開院後も入院患者数・病床利用率が減らない試算としているのはなぜですか？

A 新病院の入院患者数・病床利用率の試算にあたっては、宍粟市の将来推計患者数が一つの指標と

なります。国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口(平成29年推計)によると、市の人口は今後減少するとされていますが、受療率(注1)の高い65歳以上の高齢者人口は、18年後の令和22年まで大きな変動はなく、その後、段階的に減少していくと推測されています(図1参照)。

また、当院では市が進める地域包括ケアシステム(注2)を支えるため、入院が必要な患者さんを確実に受け入れることや県立はりま姫路総合医療センターなどの高度急性期医療機関からの在宅復帰に向けた患者さんの受入れにもしっかり取り組んでいくことが求められています。これらのことを踏まえ、新病院開院後も人口減少の動向にかかわらず、当分の間は、入院患者数・病床利用率は一定数確保できると考えています。

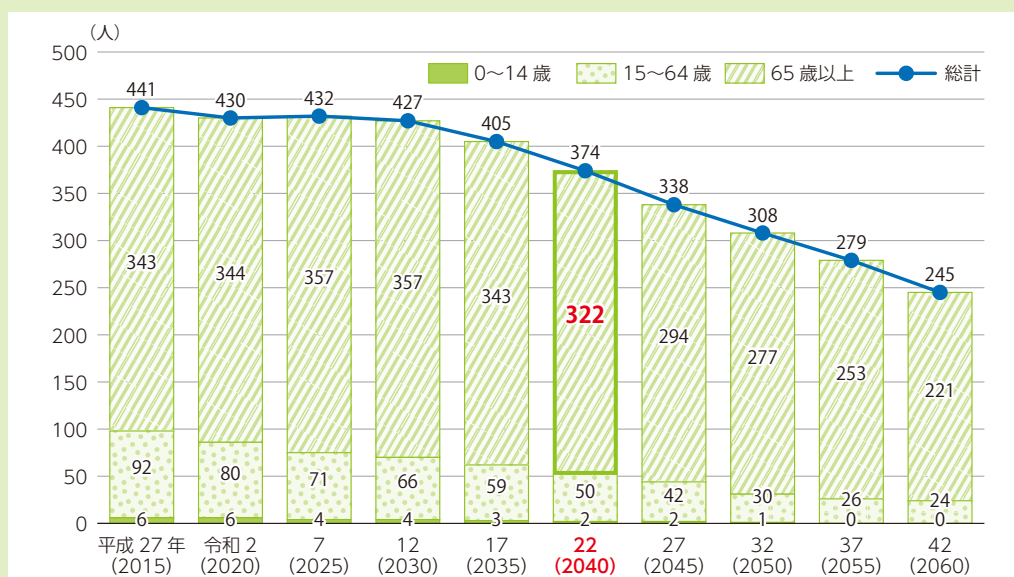
注1 人口の何パーセントが入院し、何パーセントが外来を受診しているかを示す数値。

注2 高齢者が住み慣れた地域で生きがいを持ち、安心して暮らせるよう住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供する仕組み。

Q7 出産・子育てをしやすいように、小児医療および周産期医療を充実させてほしい。また、医師の確保や今後必要性が増す整形外科医の確保については、どう考えていますか？

A 全国的に医師不足や医師の地域偏在、診療科偏在が課題となっており、宍粟市のような中山間地域においては、特に医師不足が深刻となっています。こうした状況下、小児医療および周産期医療の充実化については、医師の確保が重要と考えており、新病院では子どもを安心して産み育てられる環境を守るための小児科医師や産科医師の確保をはじめ、良質な医療の提供に必要な人材を確保するた

図1 宍粟市の将来推計入院患者数の推移



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」

め、大学との連携強化による医師の派遣や兵庫県養成医師の確保、地元出身医師への声掛けなどに継続して取り組んでいきます。

とりわけ、高齢化の進行に伴い、今後、より必要性が増すと思われる「整形外科」については、常勤化の検討を進めていきます。

Q8 宍粟市の一大プロジェクトである新病院建設に、市民と行政が一体となって取り組めるような仕組みができませんか？もっと市民に情報を提供してほしい。

A これまでの経緯として、令和元年度から3年度にかけて、市

民アンケートやタウンミーティング、パブリックコメントなどにより、市民意見を集約してきました。一部の市民からは十分な理解を得られていないとの意見もありますが、寄せられた意見についてはしっかり議論したうえで、事業実施に当たっているところです。

また、意見の中には、既に計画に反映しているもの、一方で採用していないものもありますが、市広報、ホームページ、しそうチャンネル、市公式YouTube、議会などを通じて、基本計画の重要なポイントの紹介や基本設計の中間報告など、適宜情報発信を行っています。

なお、設計図を作成する基本設計以降の作業内容については、医

療法や建築基準法などの法基準を遵守する必要があり、専門性の高い分野となるため、動線の考え方や諸室の構成など、非常に難しい内容となります。そのため、基本設計に加え、より詳細な設計図を作成する実施設計がある程度まとまった段階で、市広報、ホームページ、しそうチャンネル、YouTubeなどを活用して、市民にわかりやすい情報発信を行い、理解を深めてもらえるように取り組んでいきます。

